

ショパニスト B 部門

みなさま、お疲れ様でした！ショパン愛好家の皆様の技量に大変感銘を受けました。

音の質について、フォルテで演奏しているときでさえも美しい音で演奏できるように気を付けてください。メロディー（旋律）と伴奏のバランスについて、伴奏部分が重すぎてバランスが崩れてしまっていることが度々ありました。レガートのアーティキュレーションについて、ショパンの音楽ではレガートがとても重要ですので、常に滑らかなレガートで演奏できるようにより研究してください。選曲について、曲を選ぶときは、技術的な難易度だけでなく、求められる音楽性や表現力、必要とされる解釈という側面からも検討するようにしてください。時に、技術的にはよく弾けているものの、音楽的な観点から物足りない演奏もありました。

選曲された楽曲に一途に取り組まれた皆さんの演奏に惹きこまれました。技術的な面や音楽解釈を基盤とした説得力を伴ったレベルの高い演奏者が多く、甲乙付けがたかったです。その中で、おそらくこれまでに多くのステージ演奏を重ねてきた方であろうと思われる方が、その安定感、意志力、音色へのこだわり感、表現力などに違いが表れていたように思います

大曲、難曲を連続で聞かせていただき、かなりのハイレベルの方も多くいらっしゃって驚きました。技巧が優れている方が多かったのですが、ショパンのテクニックとは、彼の音楽を表現するためのものであります。見せびらかすような、音量や指の回りが先走りするものではありません。練習曲であっても、音楽を理解して初めて指が動いてくる作りになっています。だから、どの曲も曲の山、クライマックスが一番技巧が難しくなっているのです。ショパンの音楽を表現するために、我々ピアノ学習者は、高度な技術を習得し更にそれに磨きをかけていくのが理想だと考えます。ショパンは心の変化をそのまま音楽にしています。人の感情の変化そのものが曲想、音色の変化、表情となり聞き手に伝わるものでありたい。時に楽しく、時に悲しく切なく、時に怒り、常に物思いにふける人を音色と抑揚で演じてください。メロディもそれぞれがキャラクターを持っており、コロコロと変化していきます。いろんな役柄を演じ分ける俳優のように、常に表情の弾き分けを楽しんでください。

今回は動画での審査でしたが、的確に評価できたかどうかは正直なところわかりません。使用機種（ピアノ）、録音会場、録音機器などの違いによる個々の差がとても大きく、ディナーミクや音質、音色の違いを判別するのが難しかったです。一方、演奏者が何を考え、何を感じているかは意外にもよく伝わって来ました。

全体のレベルが高くてびっくりしました。特に音楽性が優れていて個性豊かな演奏を飽きずに聞かせて頂きました。

B 部門にエントリーされている方は技術もあり、こまやかな所まで音を聴いて音作りをされ、構成力もある演奏が多くよくまとまっていました。お若い方や男性のコンペティターも多く、エネルギーがあり、よく勉強されていると思います。一方、曲の形にとらわれて雑にとぼして弾く方もみうけられ、良い所も沢山あり（歌心が豊か）ますが、難所もじっくりと取り組んで欲しいとも思います。良い所ととても雑な所が一曲の中に混在していると点数をつける際も残念なことになりかねません。やはりもっと沢山曲がある中でもっと色々な選曲も考慮されてほしいですね。コロナ禍でコンクールが動画になり、録画撮影となると長い大曲を弾き通す作業をすることを思うと皆さんこだわって演奏していて素晴らしいと思います。これもぜひ継続をしてほしいと思いますね。